



非常時 問題点が表面化

ワクチンの接種のスピード感が、自治体間で大きな違いがあるようだ。東京都という限られた地域の中で比べても、私は今週やると1回目の接種だが、他の区ではもう2回目の接種を済ませたという人の話も聞く。静岡県の市町はどんな具合だろう。

短期間に多くの人にワクチンを接種するというような作業になると、その自治体の能力が見えてくる。打ち手である医療関係者の協力をどこまで得られるのか、ワクチン接種の予約を公平かつ効率的

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

を行うためにどのようなシステムを活用するのかなど、平時ではあまり問題になることがないような行政組織の能力が求められることになる。予約システムの使い勝手を見ても、正直、非常に出来の悪いものであると感じたのは私だけではないだろう。

非常時の地域の対応ということ言えば、2011年の東日本大震災でもそうだった。震災の後、あちこちの町や村から驚くような話が多く伝わってきた。中には子供たちだけで全員が避難して助かった奇跡のようなケースもあれば、現場の人の対応のミスで多く

ワクチン接種と自治体の能力

接種のペースが遅くなる市町村にはそれぞれの理由はあるだろう。それでも他の市町村と結果が大きく異なるのであれば、そこには改善すべき点があるはずだ。非常時の対応は、その行政組織が抱えている問題点を表面化させることになる。

の犠牲者が出たケースもあった。運が良いとか悪いというような話だけではなく、危機の時に自治体や地域がどう能力を発揮できるのかが問われたのだと思う。震災の経験はあまりにも重いものであったので、その時の教訓の多くを残すような努力が続いてい

る。できるだけ多くの人に被災地に足を運んでもらい、震災の記憶を残した各地の伝承館を見て、地元の話も聞いてもらいたい。危機の時に地域にどのような能力が求められるのか考える良い機会になるだろう。

不満のリスト 検証必要

さて、ワクチン接種の話に戻るが、私たちが感じている不満の原因がどこにあるのか、きちっと検証しておく必要がある。なぜ自分のところの市町村ではなかなか接種が進まなかったのか、その原因を調べる必要がある。その情報を材料にして、地域の危機対応能力を高める材料にしてほしい。コロナ禍で私たちが経験したこ

とは、日頃は見えにくかった社会の弱点を曝け出すことになる。病床が多いはずの日本の医療提供体制にもかかわらずコロナ病床をすぐに増やすことができなかったこと、国民一律に10万円配るという単純な作業に何週間も時間がかかったこと、そして今回のこのワクチン接種での地域による対応の巧拙である。他国に比べてPCR検査の数が非常に少なかったこと、そして感染防止のソフトウェアがうまく活用できなかったことなどもある。コロナ禍で私たちが感じた不満を並べてみれば、もっと長いリストが出来上がるはずだ。そうした不満のリストをしっかりと検証し、地域の能力を高める努力が必要である。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。